

e-radio 夏休み特別番組「世界遺産へGO! がんばれ彦根城」で放送した質問・回答を紹介します

日時：令和4年(2022年)8月15日(月)~18日(木)、22日(月)~25日(木)
e-radio「style!」内 10時15分頃~ 約5分

内容：小中学生の皆さんから募集した彦根城や世界遺産に関する疑問・質問を、世界遺産博士の細川さんとe-radioアナウンサーの森田恵奈さんが番組内で答えました。



世界遺産博士の細川です。
彦根城や世界遺産を好きに
なってくださいね♪

【質問一覧】

- P2 ① 去年家族で彦根城に行ったのですが広すぎてどこをみていいか分かりませんでした。みどころやおすすめの回り方があればおしえてください。
- P3 ② 世界遺産、国宝、重要文化財いろいろありますが、どれが一番偉いんですか？
- P3 ③ 世界遺産って誰が決めているんですか？
- P4 ④ 修学旅行で姫路城へ旅行にいきました。彦根城と姫路城で最も大きな違いはなんなのでしょうか？
- P5 ⑤ 彦根城にはだれが住んでいますか？お泊りできますか？
- P6 ⑥ 滋賀県にはいくつ世界遺産がありますか？
- P7 ⑦ 前に廃藩置県で取り壊された城が多くあったと授業で習いました。残っているお城と取り壊されたお城にはどういう差があるのでしょうか？
- P8 ⑧ 彦根城の意外に凄いところベスト3を教えてください。
- P9 ⑨ この前京都に住む友達に京都より滋賀のほうがお城が多いと聞きましたが本当ですか？
- P10 ⑩ いま彦根城を建てようと思うといくらくらいお金がかかりますか？お父さんは酔っぱらうと「この家が建つのに5,000万かった」とよく自慢してきます。
- P11 ⑪ 学校の課外学習でおかね堀について教えてもらいました。人柱って本当にあったのでしょうか？

①ラジオネーム:ンダヨ

去年家族で彦根城に行ったのですが広すぎてどこをみていいか分かりませんでした。みどころやおすすめの回り方があればおしえてください。

世界遺産博士の答え

彦根城に行くと、まず天守に登りたくなりますね。でも、天守は、登るところでも、住むところでもありません。世界遺産では、天守は見あげることに意味がある建物です。城下町に住む町人や村に住む農民は、天守を望み、今日も平和に暮らせることに感謝し、武士たちは、天守の下でしっかりと政治に励む気持ちを新たにしました。

今日は、天守を見るポイントを紹介します。玄宮楽々園から見上げる天守がおすすめです。玄宮楽々園は、お殿様が作ったお庭で、池を中心に色々な景色が再現されています。お殿様はここで、散歩をしたり、和歌を詠んだりするなど、息抜きを兼ねて教養を磨きました。

その時に、お殿様が見上げた天守の風景。庭の景色の向こうに、緑の山や石垣、そして天守が見えます。お殿様は、この景色を見て、何を考えたのでしょうか。

今見る景色とお殿様の見た景色は、ほとんど変化していません。そして、全国のお城の中で、この景色が体感できるのは彦根城だけです。

次に彦根城に行くときは、ゆっくりと玄宮楽々園を楽しんでください。

MC:確かに、「お庭から見上げる彦根城」というのもすごくカッコいいですし、昔の人たちが玄宮楽々園からどんな思いでお城を見上げていたのか、というのを想像すると、それも楽しいですね。

そうですね。そういうことが体感できる場所、というのが玄宮楽々園なので、彦根城を代表する見どころの一つだと思います。

②ラジオネーム:ひこわん

世界遺産、国宝、重要文化財いろいろありますが、どれが一番偉いんですか？

世界遺産博士の答え

国宝と重要文化財は、日本の法律で決められています。

文化財保護法という法律では、「日本の国にとって歴史や芸術、文化などに価値が高いもの」が重要文化財になり、その重要文化財のなかでも「極めて優秀で、意義の特に大きなもの」が国宝と決められています。

その意味では、重要文化財の中から国宝が選ばれるということで、国宝の方が偉いと言えそうです。

問題は世界遺産です。世界遺産は「国どうしの約束である条約」で定められています。条約には、「世界の人々にとって大切な価値が必要。」とされています。これはとても難しいことで、「日本の国にとって大切」でも、「世界中の人々にとって大切」とは限りません。日本の国宝と言っても、世界の人々が大切と思わなければ、世界遺産にはなれません。

では、国宝より世界遺産が重要か、偉いかと言えば、そうでもありません。世界遺産になっていない国宝はたくさんありますが、重要文化財や重要な文化的景観でも、世界遺産になっているものもあります。

考えると難しいですが、「世界遺産」と「国宝・重要文化財」は、ジャンルが違くと捉えるといいでしょう。

MC:なるほど。どちらも全て大事なものですから、みんなで大切にしていきたいですね。

そうですね。重要文化財も国宝も、本当に大切なものですので、偉い偉くないではないと思いますね。

③ラジオネーム:カキン様

世界遺産って誰が決めているんですか？

世界遺産博士の答え

世界遺産は、多くの国々の中の約束・条約として成り立っています。これを世界遺産条約と言います。

この条約は今から 50 年前、1972 年に成立し、1978 年から世界遺産の登録が始まりました。日本がこの世界遺産条約に参加したのは、30 年前の 1992 年で、翌 1993 年に、姫路城と法隆寺が日本最初の世界遺産として登録されました。

現在 194 か国が、この条約に参加しています。

国と国の約束なので、その条約や取扱いは、国際連合の一つであるユネスコ(国際教育科学文化機関)という組織が行っています。そして、毎年開催されるユネスコの世界遺産委員会で、世界遺産とすべきかどうか議論され、決定されます。

(ユネスコの世界遺産委員会の委員国は 21 か国で、登録のためには、その全員の賛成が原則となっています。(任期 6 年))

また、世界遺産は非常に専門的で、難しい知識が必要です。そのためユネスコは、文化遺産の場合は、イコモスと呼ばれるグループ(国際記念物遺跡学会)に専門的な部分を相談(諮問)します。実際に、世界遺産の推薦書の中身を検討し、また、現地に来て調査をするのは、このイコモスから選ばれた人たちです。イコモスは、約 1 年間調査を行い、これが世界遺産に相応しいかどうかの答えを出し、ユネスコに報告します。

MC:世界遺産に登録されるのは、たくさんのステップがあり、本当に難しいことなんですね。

そうですね。国際条約で決まっています。細かいことがたくさん決まっていて、それをひとつひとつクリアしていくことが彦根城の大きな課題で、頑張っています。

④ラジオネーム:Z

修学旅行で姫路城へ旅行にいきました。彦根城と姫路城で最も大きな違いはなんなのでしょうか？

世界遺産博士の答え

世界遺産と世界遺産の候補 この差が一番違いますね。また、巨大な5層天守と、むしろ、「こじんまり」とした3層天守、これも見た目の大きな違いと言えるでしょう。

さて、この問いには、世界遺産としてまじめに答えてみましょう。世界遺産のルールの一つに、「同じ国から同じ価値を持つ類似資産は、複数登録することができない。」というのがあります。このルールに従えば、彦根城の価値と姫路城の価値が、異なることを明確に説明できなければ、彦根城は世界遺産になることはできません。

姫路城は、「木造の城郭建築の最高傑作」として世界遺産に登録されています。お城として優れている。木造建築として優れている。人類が多くのもので作ってきたが、その最高傑作のひとつと言って良いだろう、という意味です。従って、彦根城が「お城」としていかに優れていると説明しても、「結局2番目でしょ」ということで登録されることはありません。

そこで、私たちは姫路城が世界遺産になった理由を詳しく調べてみました。すると、姫路城が江戸時代にどのように使われたのか、どのような意味を持っていたのか、ということがほとんど説明されていないことに気がつきました。彦根城と姫路城が違う価値を持つと証明するには、この、姫路城が世界遺産として書かれていない、認められていない部分を、しっかり説明することが大切ではないかと考えました。

そして、色々調べてみると彦根城は、姫路城では失われた庭園が残っています。大名の御殿も博物館として復元され、その跡、遺跡もしっかり保存されています。重臣屋敷もその一部の建物が残り、また、その遺跡もしっかり保存されています。藩校の跡もあります。世界遺産の姫路城では説明されていない、江戸時代の使われ方やその意味に関する部分が、姫路城では残っていませんが、彦根城では多く残っています。その違いに気がつきました。

そして、その事実が、彦根城を世界遺産にするための、とても重要なことになっているのです。

MC:天守そのものの重要さはもちろんですが、その他に付随しているものが全てちゃんと残っているところや、それがどういう風に使われていたとか意味的なものも付加して、ということなのですね。

そうですね。御殿や庭園はどんな意味があったのか、そういうことを説明して、姫路城にはない価値を証明したいと思っています。

⑤ラジオネーム：湖南省にお住まいの山本さん

彦根城にはだれが住んでいますか？お泊りできますか？

世界遺産博士の答え

現在、彦根城の世界遺産にしようとしている範囲には、個人、一般の人がお住まいの住宅があり、30人程度の方が住んでおられます。その方々とお友達になれば、彦根城でのお泊りも実現するかもしれないですね。また、玄宮楽々園の中の建物、八景亭は料亭旅館として平成29年まで使われていたので、そこで泊まったり、結婚式を挙げたりした、という方も少なくありません。

さて、江戸時代、お殿様は、参勤交代のため一年交代ですが、お城の中の表御殿で暮らしていました。残念ながら、奥様と長男は江戸で生活することになっていたのです。彦根のお殿様なのに、彦根では単身赴任状態でした。現在の彦根城博物館は、この表御殿を復元したものです。特に、木造棟と呼ばれる部分は、お殿様のプライベート空間をそのまま復元したものです。そこで泊まりすることはできませんが、見学は可能なので、実際にお殿様が単身で暮らしていた場所を体験してください。

この表御殿から内堀を挟んだ外側の範囲には、重臣たちの屋敷が25軒前後営まれていました。そこでは、重臣たちが家族や家来と一緒に生活していました。西郷屋敷の長屋門、脇家の長屋、木俣家の屋敷の一部が残っています。現在は内部の見学はできませんが、少しずつ、その整備を進めることも必要です。

そして、このお殿様の御殿と重臣たちの屋敷が、頑丈な堀で囲まれた空間に集まっていること、それが彦根城の大きな特徴なのです。世界のお城や統治に使われた宮殿を見ても、お殿様、領主に仕える執事や召使いなどは、そこに一緒に生活しますが、政治の重要な決定をする人々が家族ともども、そのお城という限られた空間で生活している例は、世界ではほとんど見られないのです。この重要な特徴の意味を、しっかりと説明することが、彦根城の世界遺産への近道なのです。

最後に天守ですが、これは住むところではありません。お殿様でさえ、一生に一度、登っただけです。内部には、歴代藩主の甲冑のほか、法令の原本、家臣の由緒を示す書類など、象徴的なものを保管していました。

MC:あの彦根城の天守も、お殿様は一生に一度しか登ったことがないのですね。

お殿様になって、初めて彦根に帰ってきたときに天守に登り、「ここを治めるんだ」と決意を新たにする、そのためだけに使われたということです。

MC:では、何回か彦根城に行って、天守に登ったことがある人は、もうお殿様が登った回数を超えているんですね。

そうなんです。江戸時代のお殿様は怒っていますよ(笑)。「おれも一度しか登ったことないところに、何回登っているんだ」ってね。

MC:彦根城の天守に何度も登るのは、住む以上の価値がありそうですね。

⑥ラジオネーム:らあらくん

滋賀県にはいくつ世界遺産がありますか？

世界遺産博士の答え

現在、滋賀県に世界遺産は1つです。「古都 京都の文化財 京都市 宇治市 大津市」では、17のお寺や神社などが世界遺産として登録されていますが、その中の一つに、「比叡山延暦寺」が含まれています。

京都は、平安時代から明治まで、約1000年の首都として、常に日本の文化や伝統の中心であり続けたことが評価されて、世界遺産になりました。特に、その建築や庭園は、世界に大きな影響を与えたとされています。そして、「比叡山延暦寺」は、京都を悪霊や禍から守るお寺として位置づけられ、京都の歴史と密接に関係した歴史を持っています。また、鎌倉時代の初め頃には、親鸞や日蓮など、多くの重要な僧侶を輩出しました。この二つの事実が高く評価されて、17の社寺の中に含まれました。

ちなみに、古都京都の文化財の中には、二条城も含まれています。これは、滋賀県で二つ目の世界遺産を目指している彦根城の先輩として考える必要もあるのです。

なお、世界遺産とは少し違いますが、「世界無形遺産」には日本では22件が記載されています。そのうちの「山・鉾・屋台」の一つに、長浜の曳山祭りが含まれています。

さらに、「世界の記憶」は、日本では国際登録7件・地域登録1件があります。そのうちの、「朝鮮通信使に関する記録」の中には、長浜や近江八幡の資料も含まれています。

無形遺産や世界の記憶は、これからも滋賀県から増える可能性があるので、世界遺産も登録を目指して頑張りたいと思います。

MC:滋賀県には、大切な史跡や文化が本当にたくさん残っていますね。

⑦ラジオネーム:山田メイ

前に廃藩置県で取り壊された城が多くあったと授業で習いました。残っているお城と取り壊されたお城にはどういう差があるのでしょうか？

世界遺産博士の答え

明治時代・廃藩置県の後には、お城は「軍隊・陸軍」が管理することになります。そこで、軍隊は調査を行い、「使えるお城」と「使えないお城」に分類しました。

使えないと判断されたお城は解体され、建物は売られ、土地は他の目的に利用されるようになりました。

軍隊が使うとしたお城も、天守など維持するにはとてもお金がかかるので、必要ない建物を売り、軍隊の財源にしようとした。

このような理由から、お城が壊されようとした時に、地元の人たちがとても残念に思い、何とか保存してほしいと嘆願書を出したり、あるいは自分たちでお金を出し合ったりしました。つまり、市民の熱意でお城が残されることになりました。その代表が彦根城で、他には松本城も有名です。

一方、軍隊自身がお城を使っていく中で、このお城は文化財としても大切だから保存しようという動きも出てきます。軍隊が残したお城の代表が姫路城や松江城です。

いずれにしろ、お城を残していくためには、大変なお金が必要です。多くのお城が壊されたのは、そこに原因があります。そして、残されたお城は市民の熱意がこの問題を支えました。

そしてこれは、現在も変わりありません。世界遺産として彦根城を未来にわたって伝えていくためには、市民の皆様の熱い思いが必要です。

皆様、力を合わせて、彦根城を未来の子供たちに残し、伝えていきましょう。

MC:このように聞くと、今残っている天守の見え方も変わってきますし、昔の方たちが大切にして残してきた彦根城を、もっと大事にしないといけないな、と思いますね。

そうですね。壊されそうになったときに、彦根の人たちが何とか残してほしい、と一生懸命訴え、熱意が伝わって残されることになりました。その熱意が一番大事だと思います。

⑧ラジオネーム:ひこにゃん大好き

彦根城の意外に凄いところベスト3を教えてください。

世界遺産博士の答え

私が思う意外にすごいところベスト3、お教えしましょう。

1番目は、馬屋です。

彦根駅から彦根城に向かい、佐和口を超えたところにある建物で、重要文化財になっています。馬屋は、その名の通りお城に付属する馬小屋、つまり馬を飼育していた場所です。でも、お城に付属する馬屋が現存するのは、彦根城だけです。しかも、彦根のお殿様は、参勤交代で江戸から帰ってくるときに、将軍から馬を貰うことになっていました。この馬屋は、その将軍からもらった馬を飼育していた場所です。最高級の名馬が、ずらりと21頭ならんでいました。ここを見逃してはいけません。

2番目は、西郷屋敷の長屋門です。キャッスルロードから京橋を渡って城内に入ると、正面に見える建物です。本来は隣の庵原家の門でしたが、明治時代にこの場所に移されました。武家屋敷の格式は門の大きさで示されます。庵原家は彦根藩でナンバー2の家臣です。長さ約44m、高さ6.3mの巨大な門で、その威容を示していました。これは、全国に残っている武家屋敷の長屋門の中では最大の規模です。内部は8頭の馬を飼う馬屋や、門番の部屋、来客のお供の待合室などに利用されていました。京橋から城内に入った時に目に入る威容。これも見逃すことはできないでしょう。

3番目は、中堀です。中堀は、長さ約2.5キロ、幅は7~48mです。世界遺産にしたいと考えている範囲をぐるりと囲む役割を持ちます。堀を渡るための橋は4カ所で、その橋の部分には、堂々たる櫓が構えられていました。現在も、彦根城の正面、佐和口多門櫓が残されています。ここでは、いろは松付近から中堀を挟んで佐和口多門櫓、そして、その背後に天秤櫓、天守と見える景色はまさに圧巻です。

MC:彦根城に行って、まず一番に天守に行きたいなという気持ちもあると思いますが、周りのものも全部を見てようやく彦根城に行ったといえるのですね。

そうですね。彦根城にしかないものもありますし、特に、中堀から佐和口を見る景色は、本当に雄大できれいな景色なので、ぜひ見てほしいですね。

⑨ラジオネーム:まーちゃん

この前京都に住む友達に京都より滋賀のほうがお城が多いと聞きましたが本当ですか？

世界遺産博士の答え

本当です。

滋賀県は 1328 のお城跡があります。京都府は 1307。わずかですが、滋賀県の方がお城が多かったのです。ちなみに福島県は 1997、広島県は 1481、岩手県は 1429 で、滋賀県は全国 4 位です。

しかし、1328 のお城の大部分は、山を削ったり、周囲に溝をめぐらしたりしただけの簡単なお城で、主に戦国時代に作られました。戦いの多い時代で、村々やお寺などが独自にお城を作って、自分たちの生活を守ろうとしました。これらのお城は、天守も石垣もなく、初めての見た人の中には「これがお城??？」と疑問に思う人もいます。

戦国時代の終わりに近づくと、小谷城や観音寺城、清水山城など、大規模なお城が作られます。しかしまだ、石垣も部分的で、大部分が山を削っただけで、天守も白壁也没有ありません。

そして、織田信長の安土城。石垣をくみ上げ、堀も作り、天主や門、櫓なども備え、私たちのイメージするお城に近づきます。大溝城や坂本城、長浜城もその仲間です。その後さらに発展し、豊臣秀吉の時代の犬津城や八幡山城、水口岡山城は、高い石垣や聳える天守などを備え、私たちのイメージするお城がほぼ完成しました。

しかし、江戸時代になると、お城の歴史にとって大変重要な法令・命令が出されます。

一つは、元和偃武とよばれるもので、「もう戦いはしない、武器を置く」という宣言です。これまでお城は戦うこと、守ることを目的に作られてきましたが、これは、お城について「もう、戦いには使いません」と宣言しました。これによって、お城の性格が大きく変わりました。

もう一つが一国一城令、「一つの領地には一つのお城しか許さない」という法令です。これにより、今まで数多く作られてきたお城が、壊され、忘れ去られていきました。

これを契機に、お城は大名・城主のものではなく将軍のものであり、大名たちはそれを預かっているだけになりました。お城の修理をするにも、幕府・将軍の許可が必要になりました。

こうして、私たちのイメージする県内のお城は、彦根城、膳所城、水口城の3つになりました。

なお、お城より小規模な陣屋は、これはよびますが、少し経緯があるので城と呼ばれますが、小室藩、宮川藩、山上藩、大森藩三上藩、仁正寺藩、堅田藩、大溝藩、朽木藩の陣屋がありました。

MC:お城としてイメージするものはやはり、天守があるお城が多いですが、調べてみると、近くの小さな山が城跡だったりするのですね。

小さな山や、田んぼの中のちよっと盛り上がっているところが昔はお城だった、そんなところもたくさんあるので探してみてください。

⑩ラジオネーム:アロンアルファズ

いま彦根城を建てようと思うといくらくらいお金がかかりますか？お父さんは酔っぱらうと「この家が建つのに5,000万かった」とよく自慢してきます。

世界遺産博士の答え

大変、難しい問題です。私も答えは分かりません。しかし、少しヒントを出しておきましょう。

現在、世界遺産にしたいと考えている彦根城の範囲は、約49haです。まず、この土地を確保しようとすると約320億円必要になります。

次に天守ですが、彦根城では平成始めに、壁と屋根の修理を行っています。その時は約5億円が必要でした。また、今、復元の計画がある名古屋城は、約505億円必要とされています。単純に比較できませんが、彦根城も天守を建築するには200億円程度必要ではないでしょうか。

その他、お殿様が住む御殿は約150億円、また石垣を積むのに500億円以上、さらに堀を掘ったり、門を作ったりすると、全体で2,000億円ぐらいは、必要かと思います。

君のお父さんの自慢の家なら、4,000戸建つ計算です。

大変な金額です。彦根城を建てるときも、この金額が大きな課題だったことは、十分に考えられます。彦根城の天守は大津城から移築したと伝わっています。また、長浜城などから建物を移築していることも確認されています。石垣の石も佐和山城から持ってきています。あるいは、墓石を使っているところもあります。これらは、経費を抑えつつ、早く完成させるための工夫です。こうした工夫を重ねることは、早く立派なお城を作るために大変重要だったと思います。

如何に経費を抑えるか。そんな視点で、彦根城を見ても面白いかもしれません。

MC:経費削減というのは、今も昔も変わらない問題なのですね。

そうですね。特に、材木が手に入りにくくなっています。彦根城に登ると大きな柱を使っていますが、あれは中々手に入らないですね。大津城から移築したのは、大津城がいい天守だからだと伝わっていますが、「使えるものは使う」というのもあったのだと思います。

MC:リサイクルの精神が昔もあったということで、昔の人の知恵なのかもしれないですね。

①ラジオネーム:シャーロック77

学校の課外学習でおかね堀について教えてもらいました。人柱って本当にあったんでしょうか？

世界遺産博士の答え

校外学習は、長浜城に行ったのかな。長浜城の堀を作る時に、人柱として犠牲になったおかね姉妹の話は、悲しくて、切ないお話ですね。

さて、人柱ですが、多くの場合は、生きた人間の代わりに、人形や絵をささげることが多かったようで、これが伝説となって伝えられたと考えて良いでしょう。しかし、人柱として生きた人を埋めたことも記録として確実に残っており、どうしても人の力では太刀打ちのできない自然災害などの場合には、人柱として、生きたままの人がささげられたこともあったようです。また、こうした場合は、罪を犯した罪人などが犠牲になったようです。

この時代は、科学や技術が発達しておらず、呪術や祈祷に頼ることは仕方ないとはいえ、残念で許しがたいことだと思います。

また、人柱の伝説は各地に残っていますが、これら多くの場合には、別の意味を考える必要もあるでしょう。お城づくりなどの大規模な工事では、事故によって命を落とす人たちも少なからずいたと想像できます。また、けがをしたり、工事の途中で病気になったりした人も少なくなかったでしょう。

お城をはじめとする大きな建築物の背景には、多くの人々の犠牲がありました。犠牲になった人々を忘れず、供養する意味を込めて、人柱の伝説が作られていったと考えることもできそうです。

お城や、ほかの文化財を見ることは、それを作った英雄たちのことを知るだけではありません。それを実現するために協力し、努力し、時には犠牲になった人々のことを考えてみることも、とても大切です。

MC:お城の工事にどんな人が関わったのだろうと考えてみると、もしかしたら、地元の人のご先祖様が関わっているかもしれないですし、見え方が変わってきますね。

みんなが力を合わせて作ったのだ、ということが非常に大事だと思います。また、その人たちの努力を忘れないようにするために、色々な伝説が作られていったということも、大事なことです。